

日・赤・さいたま



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

埼玉県支部

2023夏

vol. 151



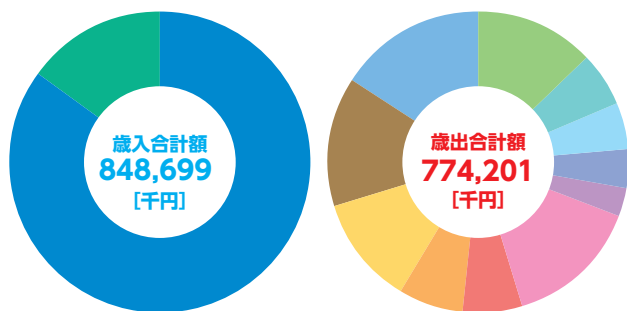
[特集] 関東大震災から100年
あの時も、いまでも、これからも、救うことをつづける。



いのちを守る、
暮らしをつなぐ

REPORT 会員のみなさまへご報告

令和5年度 第1回評議員会



項目	金額 [千円]
1 活動資金収入 ※個人住民税控除対象海外救援金36,404千円を含む ※活動資金収入のうち自治会・町会による収入323,374千円	721,770
2 事業収入・その他	126,929
歳入合計額	848,699

令和5年6月8日(木)、令和5年度第1回評議員会を開催し、支部をはじめ県内の医療施設、社会福祉施設の令和4年度事業報告や決算などについて承認されました。令和5年度も積極的に赤十字事業を進めてまいりますので、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

項目	金額 [千円]
1 災害救護活動のため	99,449
2 国際救援活動のため ※個人住民税控除対象海外救援金36,404千円を含む	46,585
3 救急法・幼児安全法等講習普及のため	38,485
4 青少年赤十字活動のため	31,165
5 赤十字ボランティア活動のため	23,425
6 救急医療活動や看護師養成のため	112,132
7 献血思想の普及や地域社会福祉活動推進のため	49,534
8 各市区町村での赤十字活動のため	54,387
9 赤十字会員の加入促進や広報活動のため	89,317
10 業務運営管理等のため	107,218
11 積立金	122,504
歳出合計額	774,201

◇差引額74,498千円は、令和5年度に繰り越しました。
◇赤十字病院および社会福祉施設は施設ごと、血液センターは血液事業全体での特別会計のため、この決算には含まれていません。

PRESENT プレゼント

防災グッズ5点セット

- 1 電池不要! ダイナモLEDライト
- 2 使い色々! 赤十字マーク付三角巾
- 3 保温に最適! アルミシート
- 4 持ってて安心! 絆創膏
- 5 多機能ボールペン



正解者の中から
抽選で5名様!

クイズ! ○○に入る言葉はなんでしょう?

日本赤十字社が過去の大災害で得た教訓は?
「○○・○○」の大切さ

ヒントは中面にあるよ!



プレゼント応募方法

メール・はがき・FAXでご応募ください。

締切は**8月31日(木)** 必着

当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
いただいた個人情報は、プレゼントの発送およびご連絡にのみ使用いたします。お寄せいただいたご意見・ご感想は個人が特定できないよう配慮したうえ、当支部が行う広報活動に活用させていただく場合があります。

応募にあたって

以下の項目を明記のうえご応募ください。

- 1 お名前 2 郵便番号・ご住所 3 電話番号 4 年齢
- 5 メールアドレス 6 本紙入手場所(例/献血ルーム)
- 7 ご感想 8 ご要望(取り上げてほしいテーマなど)
- 9 クイズの答え

※メールの際は、件名に「日赤さいたまプレゼント応募」とご記載ください。

応募先

〒330-0064
埼玉県さいたま市
浦和区岸町3-17-1
日本赤十字社埼玉県支部
日赤さいたま担当
FAX:048-834-1520
Mail:koho@saitama.jrc.or.jp

いろいろな形での寄付方法のご案内

遺贈・相続財産寄付

故人の「財産を社会のために役立てたい」という思いを、災害や紛争で苦しむ人々を救う活動に繋げます。(税制上の優遇措置があります)



赤十字支援型自動販売機

飲料メーカーの売り上げの一部が赤十字の活動資金になります。



リサイクル寄付

ご自宅等にある不要なものを査定・換金し、その一部が赤十字の活動資金になります。



日赤さいたまは日本赤十字社埼玉県支部が発行する広報紙です。この広報紙は2,000円以上のご寄付をいただいている方へお送りしているほか、市区町村の日赤窓口、赤十字施設でお配りしています。支部ホームページで閲覧することもできます。

赤十字活動の"今"伝えます! 公式SNS運用中!



関東大震災 100年

あの時も、今も、これが

日赤は、1888(明治21)年に発生した「磐梯山噴火災害」で初めて災害救護活動100年前に発生した「関東大震災」でも直ちに救護所を設置。埼玉県支部でも現在では、災害に備えた救護員の育成はもちろん、地域で災害を乗り越える



100
年前

関東大震災における 埼玉県支部の活動

皇居前広場救護所大テントの活動状況

日本の自然災害史上最悪の被害

1923(大正12)年9月1日午前11時58分、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9の地震が発生。県内では、熊谷で最大震度6を観測。粕壁町(今の春日部市)付近を中心に、古利根川、元荒川流域で被害が大きかったと記録されています。

県内救護所の設置

発災直後、大宮・川口方面に被災傷者が発生したとの連絡を受けて、直ちに救護所を設置。その後、多数の傷病者が東京方面から押し寄せてきたとのことで、県や医師会とも連携して活動しました。

当支部が設置した救護所	救護員	延べ患者数
4か所 (大宮駅前・川口小学校・戸田村・蕨町)	60人	7,750人

東京(被災地)臨時救護所での活動

9月4日からは、被災地である東京に臨時救護所を設置し、救護にあたりました。12月10日に最後の救護所が閉鎖になるまで、約3か月にわたって被災者に寄り添いました。

当支部が活動した救護所	延べ患者数
5か所 (日暮里駅前・滝野川町役場・王子町・日暮里第五小学校・永田町)	47,352人



赤十字が設置した「本郷臨時産院」の様子

少年赤十字団による活動 (いまの青少年赤十字!)

少年赤十字団は結成間もない時期でしたが、被災地支援に協力するため、義援金や物資を集めました。集められた金品は、本社に送られ、今の東京都支部・神奈川県支部を通じて被災小学校に配布されました。

■ 義援金 42円45銭 ■ 教科書 2165冊 ■ 文房具 1492点 ■ 衣類 6点

らも、救うことをつづける。

動を実施して以来、現在に至るまで24時間365日、自然災害に備えています。
県内外で被災者救護にあたりました。
「防災・減災力」の向上を目指し、活動を進めています。

今

訓練に取り組む埼玉県支部の救護員

埼玉県支部の救護体制

常備救護班	10班
救護員数	917人
無線局	69局
救護車両	29台
救援物資	緊急セット・安眠セット 布団セット・毛布・タオルケット 感染予防セット

2023年3月31日現在

過去の大規模災害で得た教訓、それは「防災・減災」の大切さ。

日赤では、これまで多くの災害で医療救護を行ってきました。

しかし、阪神淡路大震災(平成7年)や東日本大震災(平成23年)など、過去に発生した大規模災害では死者の約9割が圧死や溺死という現実。これは、災害発生直後の応急対応の限界を示しています。

災害によってもたらされる被害や、「失われる大切ないのち」を少しでも減らすため、様々な取り組みを進めていきます。

防災セミナー

令和4年度実績
32回
779人



災害からいのちを守るために必要な知識や備えについて理解し、実践していただくことを目的に実施しています。グループワークなどを通じて、“顔の見える地域づくり”の一助にご活用いただいています。

救急法等の講習

令和4年度実績
343回
7,496人



ケガや病気から人々を守り、健康で安全に暮らすための知識と技術を学びます。心肺蘇生や包帯の使い方を中心に習得する救急法、幼児安全法のほか、避難生活で起こりうる問題を知り、配慮を必要とする方への支援の方法を学ぶ避難生活支援講習などがあります。

青少年赤十字 防災教育プログラム

令和4年度実績
10回
737人



災害への正しい理解と、自ら考え、判断して危険から身を守る子どもを育成しています。園児から高校生まで、それぞれのレベルに応じた教材を提供し、学校教育の中で実施しています。

赤十字ボランティア

令和4年度実績
61回
6,515人



「困っている・苦しんでいる人の役に立ちたい」という思いを持ったボランティアが赤十字を支えています。県内各地で日々活動しているボランティア。災害時には炊き出しを行うなど、共助の力で地域に貢献しています。

講師派遣します！

お問い合わせ

【防災セミナー・青少年赤十字防災教育プログラム】青少年・ボランティア課
【救急法等の講習】救護・講習課

まずはお電話ください！

TEL.048-789-7117